



～BFHの取り組みから見てきた母乳率の重要性～

コラム

坂総合病院 QI 委員 4 階病棟助産師 渡邊佐登美

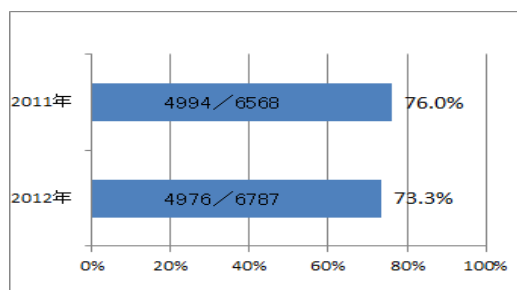
今回 BFH（赤ちゃんにやさしい病院）1 次審査を無事通過する事ができました。

この BFH とは一言で言えば母乳育児を推進する活動です。お母さんと赤ちゃんにとって「やさしい」とは何でしょう。その基本となるものは、赤ちゃんが健康で元気に育つこと。そして健康に育つことは母やその家族が安心して子育てができる事ではないでしょうか。さらに言えば母乳は赤ちゃんの時だけでなく大人になってからの健康にも影響を与えます。つまり、母乳育児は一時的に大変だと感じるかもしれませんが、長い目でみると実はとても安心で安楽な育児なのです。完全母乳でなくとも少しでも多く少しでも長く母乳を飲む事ができたらいいのではないかと感じます。

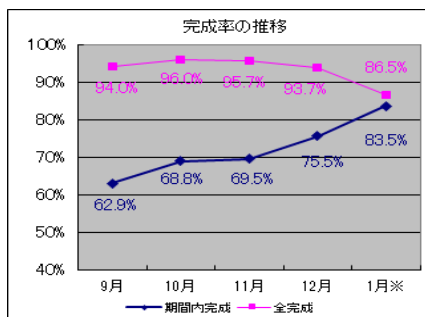
この事を伝えるべく私たちの BFH 活動は 15 年にもわたります。この支援の結果が母乳率としてデータ化されるようになりました。この数年間で母乳率は大きく伸び、今年度の完全母乳率は退院時 94.7%、1 か月健診で 84.4%です。（認定基準は退院時 90%、1 か月健診時 85%）この母乳率の向上は単なる認定取得のデータとしてだけではなく、赤ちゃんの健康に何らかの良い影響を及ぼした証といつか言える日が来るのではないかと信じています。そう考えると、いかにデータ化することが重要で信頼性の持てるものでなければならないということを感じます。また、それだけではなくこの QI というものの大切さも感じました。今後、妊産褥婦にさらにより良い支援を提供できるよう QI の視点からデータや援助を考えなければならないと感じます。

指標紹介

退院後 2 週間以内のサマリー記載率



現在の記載状況 2013～2014 年



入院していた患者さんが退院すると、担当医は入院時の医学的経過を要約して記録することが義務づけられています。この退院サマリーはすべての医師にその重要性は十分理解されています。しかし多忙な医師にとって迅速に書き上げるのが重荷になっているのもひとつの現実です。

臨床研修指定病院としては 2 週間以内で 80%以上が良好とされ、100%に達する時間や努力が評価されます。いずれにせよ、2 週間以内に 100%の記載率を得られるような病院としての努力や工夫が求められています。そのためには医師の事務業務への支援策なども含まれます。

退院後 2 週間以内のサマリー記載率が高いというのは、医師のみならず病院全体としての意識の高さを表しています。診療の記録が的確にかつ迅速に記録されていることを示す一つの指標となります。全日本民医連のデータとの比較では当院はほぼ中央値に近い値となっています。2011 年と 12 年ともおおむね同様の値です。当院でもことあるごとにこのサマリー記載率は言挙げされますが、目覚ましい改善を得ているとはいえません。急性期病院での医師労働は過密です。どうしても治療や検査に時間を割くことが優先されますが、医師労働への配慮も行いつつ、さらなる取組みの強化が求められています。

現在、6月の受審にあたって記載率向上のため、診療情報室が作成したデータを毎週医局の朝会で現状を報告しており、右図のように徐々に記載率がアップしています。100%記載目指して取り組みをお願いします。
QI 委員会事務局

シリーズ“統計のはなし” No.9

前回はデータの特徴を示す「平均値」「中央値」を題材にしました。この値はデータ全体を「代表」する値なのですが、その他のデータの「散らばり」は分かりませんでした。今回はその「散らばり」をテーマにお届けします。

最大値・最小値

最大・最小の値を求めると、データが含まれる範囲の大枠を把握できます。ただし、「外れ値」と呼ばれる極端に大きい（小さい）値があると広めの「散らばり」にみえることに注意してください。（Excel 関数：MAX, MIN）

四分位数

前回の「中央値」はちょうど真ん中の値を意味しました。これは言い換えると 50%の位置にある値と言えます（最大・最小は 100%と 0%）。さらに半分の位置（25%と 75%）の値を四分位数と言います。中央値を挟んで 25%と 75%の値の範囲を求めることで、おおまかなデータの散らばりを把握できます。この値は中央値とセットで使われます。（Excel 関数：QUARTILE）

分散・標準偏差

分散とは、平均値とそれぞれのデータの差（離れ具合）を計算し、散らばり具合を平均化した指標です。「標準偏差=√分散」という関係で、平均値と標準偏差を「平均値±標準偏差」のように用います。平均値を中心にして、どれくらいの範囲にデータが含まれるか？と読み解きます。

例えば、平均年齢 40 歳±10 歳、平均年齢 40 歳±20 歳、を比べた場合、平均は一緒ですが、後者のほうが幅広い年齢層が含まれていると読み取れます。

なお、極端な値が含まれている場合、標準偏差が大きくなるので「もしかしたら変なデータが混ざっているかな？」と判断する材料にもなります。（Excel 関数：STDEV（標準偏差））

以上、若干駆け足でしたが、「記述統計量」を使うとデータの様子が掴めることが見えてきたでしょうか？次回はばっと直感的に捉えられる方法として「ヒストグラム」「箱ひげ図」についてのコラムをお届けします。

※ Excel 関数については、例えば下記 URL をご参照ください。

<http://excel-mania.com/func/>

医療情報企画センター SE 佐藤洋之

次号（第 10 号・3 月発行予定）のご案内

今回は引き続き指標紹介「予定手術開始前 1 時間以内の予防的抗生剤投与割合」、シリーズ“統計のはなし” No.10 を予定しています。

